

1. 略歴

- 1986年3月 東京大学教養学部教養学科第一文化人類学分科卒業
- 1986年4月 東京大学大学院社会学研究科文化人類学専修課程修士課程入学
- 1988年3月 同上 大学院社会学研究科修士課程修了
- 1988年4月 同上 大学院総合文化研究科文化人類学専攻博士課程進学
- 1988年8月 文部省アジア諸国等派遣留学生として韓国ソウル大学校に留学（～1991年5月）
- 1993年3月 東京大学大学院総合文化研究科文化人類学専攻博士課程単位取得満期退学
- 1993年4月 日本学術振興会特別研究員（PD）（～1994年3月）
- 1994年4月 東京大学教養学部助手（～1996年3月）
- 1996年4月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手（～2000年3月）
- 1999年8月 韓国ソウル大学校社会科学研究院比較文化研究所常勤研究員（～2000年8月）
- 2000年4月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授（～2002年3月）
- 2000年9月 英国オックスフォード大学訪問研究者（～2001年3月）
- 2002年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
- 2016年4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授（現在に至る）
- 2019年3月 韓国全北大学校人文大学訪問研究者（～2019年10月）

2. 主な研究活動

a 専門分野

社会・文化人類学

b 研究課題

韓国朝鮮社会を主たる対象として、社会・文化人類学的な観点から調査研究を進めている。博士課程在籍時より30年余りのあいだ、韓国全羅北道南原地域でフィールドワークを続けており、他の地域でも短期の調査を重ねている。近年の研究課題は、(1) 産業化後の韓国社会における農村移住（都市居住者の農村地域への移住。韓国では「帰農」・「帰村」と呼ばれる）、(2) 韓国の「マウルづくり」活動／支援事業とローカル・コミュニティの再編成、(3) ポストモダンの状況におけるローカル・コミュニティの再編成に関する理論的研究、(4) 1990年代以降の韓国社会における墓と死者の祭祀・追慕の変化（東アジア諸社会における少子化と父系理念の再構築についての比較研究の一環として）、等である。

c 概要と自己評価

研究課題(1)については、2007年3月に予備調査を開始し、2010年8月から韓国全羅北道南原市山内面と近隣地域で、移住者とコミュニティ運動の指導者・活動家を対象としたインタビュー調査と参与観察を断続的に行ってきたが、当該年度においてはコロナ禍での行動制限により現地調査を行うことができなかった。また成果公開としては、過去の調査で収集した資料の一部を研究発表や研究論文で言及するにとどまった。

研究課題(2)については、全羅北道南原市を対象として2018～19年に実施した現地調査と、当該年度におけるオンライン・リソースの資料整理収集の成果を、第71回朝鮮学会、2020韓国文化人類学会学術大会、日本文化人類学会第55回研究大会、2021Global Korean Studies等で発表した。

研究課題(1)・(2)の民族誌的研究を基盤として、研究課題(3)のローカル・コミュニティの理論的再検討にも取り組み、慶北大学校人文大学人文学週間国際会議で発表するとともに、研究論文「可能態としての共同体——現代韓国社会における「マウル」の想像と実践に向けて」（2022年）として公開した。

研究課題(4)については、2018年度より、台湾・中国・沖縄研究者等との共同研究（科研費基盤（A））の一環として取り組んでいる。当該年度においてはオンラインでのインタビュー調査を実施するとともに、2019年12月に実施した現地調査の成果を研究論文「現代韓国社会における祭祀・追慕実践の諸脈絡」（2021年）として公開した。

以上のように、当該年度においてはコロナ禍での海外渡航制限のため、韓国現地での調査を実施できなかったが、オンラインでのインタビュー調査や資料収集など、可能な形で調査と資料収集に当たった。また、オンライン方式の導入により、韓国の学会・大学・研究機関が主宰する学術行事に参加する機会やそこで発表する機会を比較的多く得ることができた。事例研究については基本的に既収集の資料の整理分析に留まったが、その分、理論的視角の深化・洗練により多くの進展を遂げることができたと自己評価する。

d 主要業績

(1) 論文

本田洋、「現代韓国社会における祭祀・追慕実践の諸脈絡」、『韓国朝鮮文化研究』、20、pp.41-67、2021.3

本田洋、「可能態としての共同体——現代韓国社会における「マウル」の想像と実践に向けて」、『韓国朝鮮文化研究』、21、pp.115-133、2022.3

(2) 書評

[Commentary] Ahn Seung Taik, Bier-bearing “Inferiors” and the “Skin” of the Community in Modern and Contemporary Village Society: Cases from Southern Gyeonggi Province, *Korean Anthropology Review*, 6, pp.113-116, 2022

(3) 学会発表

国内、本田洋、「韓国のマウルづくりとローカル・コミュニティの再編成：南原地域の事例から」、第71回朝鮮学会、オンライン、2020.10.4

国際、本田洋、「マウル作りと政治的主体の形成：全北南原地域の事例を中心として」、2020 韓国文化人類学会学術大会、オンライン、2020.11.7

国内、本田洋、「現代韓国社会における祭祀・追慕実践の諸脈絡」、基盤研究（A）「少子化に揺れる東アジアの父系理念—祖先祭祀実践と世界観の再創造に関する比較研究」（課題番号 18H03607）第10回研究会、オンライン、2021.2.27

国内、本田洋、「韓国の「マウルづくり」とローカリティの形成：南原地域の事例から」、日本文化人類学会第55回研究大会、オンライン、2021.5.30

国内、本田洋、「課題報告「韓国」」、基盤研究（A）「少子化に揺れる東アジアの父系理念—祖先祭祀実践と世界観の再創造に関する比較研究」（課題番号 18H03607）第12回研究会、オンライン、2021.7.10

国内、本田洋、「韓国：社会的分断と共感・心の共同体づくり」、シンポジウム「「共感」と「分断」」（東京大学文学部ホームカミングデイ企画）、東京大学文学部（ハイブリッド）、2021.10.16

国際、本田洋、「協同的实践の蓄積と共有：南原地域マウルづくりの事例を通して」、2021 Global Korean Studies, Global Korean Studies and Cultural Economy: Beyond the Binary of Market and Gift、韓国ソウル大学校社会科学大学人類学科（ハイブリッド）、2021.10.29

国際、本田洋、「「マウル」の社会人類学」、慶北大学校人文学部人文学週間国際会議「共同体と人文学」、韓国慶北大学校人文学部（ハイブリッド）、2021.11.21

国内、本田洋、「現代韓国における身近な死者の葬喪と追慕：大邱とその周辺地域の事例から」、基盤研究（A）「少子化に揺れる東アジアの父系理念—祖先祭祀実践と世界観の再創造に関する比較研究」（課題番号 18H03607）第14回研究会、オンライン、2022.3.19

(4) 研究報告書

本田洋、公益財団法人日韓文化交流基金 2019 年度フェローシップ報告書「現代韓国の地方社会における共同的活動の創出と生活の場の再編成に関する社会人類学的研究」、27pp.、2020.1

本田洋、公益財団法人日韓文化交流基金 2019 年度フェローシップ報告書「현대한국 지방사회에서의 공동 활동의 창출과 생활 공간(場)의 재편성에 대한 사회인류학적 연구」（韓国語版）、25pp.、2020.1

(5) 予稿・会議録

国内会議、東京大学文学部広報委員会編著『「共感」と「分断」』、2022.3

(6) 会議主催(チェア他)

国内、「韓国・朝鮮文化研究会第21回研究大会」、大会委員、オンライン、2020.10.24

国内、「韓国・朝鮮文化研究会第22回研究大会」、大会委員長、オンライン、2021.10.23

(7) 教科書

『社会学概論 2020』、赤川学他、執筆、東京大学文学部社会学研究室、2020.10

(8) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究（C）（一般）、本田洋、研究代表者、「現代韓国社会におけるローカル・コミュニティの再構築：「共同体作り」の事例から」、2020～

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

特別講演、安東大学校大学院民俗学科4段階 BK21 教育研究チーム（韓国）、「地域共同体の現在を見る社会人類学的視角：全北南原地域の事例を通して」、2021.2.22

(2) 学会

国内、韓国・朝鮮文化研究会、会長、2020.10～2022.3、運営委員（庶務責任者）、2020.4～2022.3

国内、朝鮮学会、常任幹事・編輯委員、2021.4～2022.3

国外、*Korean Anthropology Review*、Editorial board、2020.4～2022.3